

平成 29 年 11 月 19 日

## Korea-Chine-Japan Obstetrics and Gynecology International Symposium 報告

獨協医科大学埼玉医療センター

リプロダクションセンター

杉本 公平

期間：2017 年 11 月 11 日-12 日

場所：韓国ソウル市 ソウルナショナル大学

今回、第 1 回の Korea-China-Japan Obstetrics and Gynecology International Symposium (以後、KCJIS) に参加しましたので報告します。ソウルナショナル大学産婦人科の主任教授である KIM Jae-Weon 先生が会長として開催されました。本学会は 4 セッションで構成されており、1 セッション 3 人ずつ、日中韓国各々から 1 名ずつ講演をしました。セッションは順番に、「生殖医療・不妊症」、「周産期医学」、「泌尿器婦人科学」、「婦人科腫瘍学」でした。日本からの参加者は慈恵医大産婦人科より、岡本愛光教授、佐村修准教授、矢内原臨講師、東京医科大学産婦人科より西洋孝教授、獨協医大埼玉医療センターより私が参加しました。中国からは北京大学人民病院の教授である Wan Jianliu 先生をはじめとする先生方、韓国からは KIM Jae-Weon 先生をはじめとするソウルナショナル大学の先生方が参加されていました。

初日ですが、私が「生殖医療・不妊症」、佐村先生が「周産期医学」で講演をしました。私は日本のがん・生殖医療における心理社会的ケアについて話をしました。この演題は昨年、日韓 ART カンファレンス、Oncofertility Conference で講演した内容にこの一年でさらにアドバンスした内容を加えたものでした。この講演のポイントは私が 2 年前に Northwestern 大学の Woodruff lab に留学した時に学んだ Patient Navigator システムが中心になっております。1 年前に韓国の先生方の前で講演した時には、韓国の先生方は我々日本の心理社会的ケアの取り組みがあまりにも先を行っていると感じていました。しかし、今年はソウルナショナル大学の若い女性医師から「誰が Patient Navigator を行うべきなのか？」という適切な質問もあり、1 年前に比べ心理社会的ケアの重要性に対する認識が進んでいると感じました。そして、ソウルナショナル大学の KIM Hoon 先生の乳がん患者に対する妊孕性温存療法の講演で、すでに Navigator システムを導入していることを知り、これが世界のトップレベルのスピードなのだ、と思い知らされました。私自身がずっと取り組んできたことでしたので、このことが 1 日目の最もインパクトある出来事でした。



佐村先生のご講演

夕方からは歓迎レセプションがホテルで行われ、日本、中国からの参加者1人に対して5人くらいの韓国の先生が同じテーブルについて歓待してくださいました。韓国の先生方の律義さ、人をもてなす温かさ、初めての韓国訪問でしたが、本当に心地よく過ごさせていただきました。

2日目は西先生、矢内原先生が講演されました。性器脱の手術に関する講演を西先生がされましたが、ここが今学会で一番議論が盛り上がるところになりました。術後の再発、自覚症状の評価のデータなどを元に議論しましたが、最後は手術の勘どころまで議論が及びました。私は慈恵に戻ってからの9年間、そして、現在の獨協医大でも生殖医療の仕事しかしなくなっていたので性器脱の手術の勘どころの話を聞いたのはすごくうれしく感じました。産婦人科医局という枠から外れ、リプロダクションセンターという場所にいるために、段々自分が遠ざかっている領域になんともいえないノスタルジーとともに強い興味を感じました。



西先生のご講演

セッションの間の休憩時間に病院の6階のテラスで記念撮影をしました。紅葉と歴史的建築物の絶景を観ることが出来ました。



ソウルナショナル大学6階テラスからの絶景



矢内原先生のご講演

以上のように2日間にわたる学会はあっという間に過ぎましたが、様々な刺激を受けました。まずは、自分の取り組んできたこと、1年前は私が学会で話した話をすでに運用しているスピード感ある姿勢、いいものはすぐに取り入れる柔軟さを私も学ばねばならないと思いました。そして、先述したようにソウルナショナル大学の先生方の律義さ、温かさ。私の講演の座長をしていただいた **LEE Jung-Ryeol** 先生は毎年のようにシカゴで行われる **Oncofertility Conference** に一緒に参加していましたが、私を見つけるなり駆け寄ってきてお声をかけてくださいました。私が講演の中で「日本のコミック読んだことありますか？」と会場に向かってジョークを言ったのですが、**LEE** 教授はコメントで「私は

『スラムダンク』が好きです（笑）」と返してくださいました。こういう数か国で文化を共有して笑い合えることの素晴らしさも学びました。そして、人間力と言いますか、魅力的でありながら野心を感じさせる圧倒的な存在感を持った先生にも会えました。

この学会を通じて学んだことより、次のように考えました。日中韓という地理的にも近く似通った文化である3か国が集まり、共感できることが多くありながらも、違



いを見出し、それをお互いのプラスに変えていける。日中韓の3か国が数千年の歴史を通じて築いてきた文化交流の歴史を、この学会もなぞらえて産婦人科の進歩に貢献できる、そのような意義がこの学会にはある、そう考えました。この学会の今後の発展を祈るとともに、この意義ある学会の第1回目に招待させて頂いたことに改めて感謝申し上げます。

ソウルナショナル大学の6階テラスで記念撮影